

あきる野市教育委員会 3 月定例会会議録

- 1 開催日 平成24年3月22日(木)
- 2 開催時刻 午後2時00分
- 3 終了時刻 午後2時45分
- 4 場所 あきる野市役所 4階 401会議室
- 5 日程 日程第1 議案第11号 あきる野市文化財保護審議会委員の委嘱
について
日程第2 教育委員報告
- 6 出席委員 委員長 古田土暢子
委員長職務代理者 山城清邦
委員 田野倉美保
委員 丹治充
教育長 宮林徹
- 7 欠席委員 なし
- 8 事務局出席者 教育部長 荻島邦彦
指導担当部長 新村紀昭
生涯学習担当部長 山田雄三
教育総務課長 鈴木恵子
教育施設担当課長 石川英次
学校給食課長 小林賢司
指導担当課長 千葉貴樹
生涯学習推進課長 関谷学
公民館長 岡野要一
体育課長 木下義彦
図書館長 森下正
秋川キララホール館長 逢坂郁生
指導主事 西山豪一

9 事務局欠席者

指 導 主 事

梶 井 ひとみ

国 体 推 進 室 長

橋 本 恵 司

開会宣言 午後 2 時 0 0 分

委員長（古田土暢子君）

ただいまからあきる野市教育委員会 3 月定例会を開催いたします。

本日は教育委員全員が出席しており、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 13 条第 2 項に規定する定足数に達しておりますので、会議は成立しております。

本日傍聴の希望がありますので、許可したいと思います。

事務局は橋本国体推進室長が欠席しております。

それでは、議事日程に従って会議を進めたいと思います。

まず、会議録署名委員の指名については、山城委員と田野倉委員を指名します。

それでは、議事に入りたいと思います。

日程第 1 議案第 11 号あきる野市文化財保護審議会委員の委嘱についてを上程します。

本件は人事案件ですので、非公開で会議を進めたいと思いますが、いかがでしょうか。

《異議なし》

委員長（古田土暢子君）

異議なしと認めます。

それでは、本件は非公開で進めます。

傍聴の方はご退席をお願いいたします。

= 非公開 =

委員長（古田土暢子君）

質問がないようですので、質疑を終了いたします。

議案第 11 号あきる野市文化財保護審議会委員の委嘱については、原案のとおり承認することに異議はございませんか。

《異議なし》

委員長（古田土暢子君）

異議なしと認めます。

議案第 11 号あきる野市文化財保護審議会委員の委嘱については、原案のとおり承認されました。

続きまして、教育委員報告です。

傍聴の方の入室を許可いたします。

《傍聴者入室》

委員長（古田土暢子君）

それでは、教育長から報告をお願いします。

教育長（宮林 徹君）

それでは、私の活動報告とそれから各課の報告並びに今後の予定がありますが、それについていろんなご質問があればということなんですけど。

私のほうでは、いつものように書いてありますけれども、中学校の卒業式、小学校の卒

業式、今日で終わりましたけれども、それぞれの卒業式に教育委員の先生方にも出席していただきましてありがとうございました。

いろいろな思いもあると思いますけれども、総体的には大変素晴らしい卒業式をどこの学校もやったんじゃないかと思っております。

3月19日の中学校の卒業式のところに、私のプリントの中に、もう一つの卒業式なんですけど、せせらぎ教室の卒業式、これ卒業式と言わないで、修了式と言ったんですけれども、これが2時からありました。ここにも参加したんですが、学校での大きな卒業式じゃない、せせらぎ教室の修了式、卒業式、これも非常に感動的でした。子供たちが、せせらぎ教室に来てよかったなと思うような卒業式を先生方がしっかりとつくっていただきまして、丹治先生ももちろんいたんですけども、よかったなと思えました。それは、私のところからもやっていたんですけども、今はもっともっと進化して、素晴らしいものになりました。せせらぎ教室に来てる子供たちっていうのはいろいろなものを持ってきているわけです。修了証書をあげるときに、せせらぎ教室の全課程を修了したことを証するなんていうのを渡しているんじゃないんです。これはもう中学校の全課程でもらっているわけで、せせらぎ教室に来ている子どもたちがもらえる修了証書というのは、その子のことが書いてある修了証書、あなたは、せせらぎ教室でこういうことをして、こういうことをして、こんなことがよくできることでみんなのために頑張ったよねっていうようなことが書いてあるんですね。それ一人一人の卒業する子どもたちに職員が時間かけて、あの子には何を書いてあげようかと会議をするんです。そして、最終的にAちゃんはこういうことを書いてあげよう、Bちゃんはこういうことを書いてあげよう。だから世界に1つしかない修了証書なんですよね。それをもらったんです。

今年は小中学校の卒業証書はふるさとの和紙、軍道紙ですよ。せせらぎ教室の修了証書も自分たちですいた和紙なんです。和紙というか、牛乳パックを溶かして、そして1枚のきれいな紙に干して、平らなところへ生徒たちみんなで張って、そこに先生が筆で、大きい字で、今言ったような一人一人への言葉を書いてあげたんです。これはやっぱり15の春にせせらぎ教室に行って、先生方がこんなところを見てくれたんだっていうことが、これから先とってもいい、自分が生きていくときにふっと戻れる修了証書になると思うので、私はそれを張っておいて、自分の調子が少し変だなと思ったときに、僕はこういうことができる人なんだっていうことを客観的に書いてもらっているわけだから、大事にしないよっていう話を私はしたんですけどね。とってもいい卒業式でしたね。

まさにそれは特別支援教育を一生懸命やっているあきる野市が大事にしている、大事にされている子供たちの姿だったなと思えました。保護者もいましたけども。とてもいい卒業式でありました。もう一つの卒業式。せせらぎ教室は15年ぐらいになると思うんですけど、長い歴史の中でつくり上げた卒業式だというふうに思いました。ということがありました。

委員長（古田土暢子君）

素晴らしい卒業式の様子をお聞きしまして、それで進学も決まった生徒さんもいらっしゃるというお話も聞いたし、それからこの3月は合唱コンクールもありまして、そのときに先生方がせせらぎの生徒さんをその会場に連れて、一緒に合唱を聞くという、そういう

姿も私、見させていただいて、本当にすばらしいつながりを持っているなということを感じさせていただきましたけれども、丹治委員いかがでしょうか、そのあたり。

委員（丹治 充君）

確かに、なかなか学校へは一人で行けないものですから、1つの学校行事を全体で共有するというか、そういう関係で大変貴重な体験を子供たちもしていたと思います。お声をかけていただいて、子供たちも大変うれしそうな顔をしていましたからね。

委員長（古田土暢子君）

そうですね、先生と一緒に写真を撮ったり、またそういう触れ合いもできている情景もありましたよね。本当にとってもいいつながりがあったなと思いました。ありがとうございました。

ほかの委員さんから何かございましたら。

委員長職務代理者（山城清邦君）

よろしいでしょうか。

委員長（古田土暢子君）

山城委員。

委員長職務代理者（山城清邦君）

私は、中学校は御堂中学校、それから小学校は戸倉小学校です。御堂中は私自身は、卒業式は2回目だったんですけれども、数年前に比べて、学校がすっかり立ち直っているなという感じが強くいたしました。3年生が3クラスだったんですけど、退場する際に、だれからともなく、それぞれのクラスの子供たちが担任の先生に向かって、〇〇先生、ありがとうございました、と叫んで各クラス退場していきまして、なかなか感動的でした。

それから、戸倉小は7名の卒業生で、本当に小規模な卒業式でしたけれども、もう来年で最後ということも、参列している来賓の方々も地元の方が多いわけですからみんなもう承知していますし、子供たちも承知している中で、やはりちょっとじんと来るものがありました。7名でしたけれど、卒業生とそれから在校生のかけ合いのせりふが、長さは決して短いわけじゃないので、1人のお子さんがしゃべるのがたくさんあるんですけど、みんなしっかりよく覚えていて、ああ、よく覚えられたなと思って、一人一人きれいな声でシナリオどおりに、自分の担当するせりふをきちんと言っていました。戸倉は私は初めてだったんですけど、終わってから卒業生、先生方、保護者、それから私ども来賓、一同で記念写真を撮りました。地元の方が、この学校ならではの、小規模学校ならではの風景ですからおっしゃっていて、そのとおりで、来年がまたもっとじんと来る卒業式になるんでしょう。式で子供たちに私が言ったのは、将来履歴書を書くときには、戸倉小学校卒業、ということ誇らしく書いてほしいと。なくなっちゃうわけですから。戸倉というところが特に歴史のある由緒のあるところなので、誇りを持って書いてほしいとお願いしました。

以上です。

委員長（古田土暢子君）

田野倉委員はどうですか。

委員（田野倉美保君）

私は五日市中学校と、今日は一の谷小学校の卒業式に出席させていただいて、やはり中

学校と小学校では大分趣が違うなという感じがしました。五日市中学校では、非常に格式高い形で厳かに、厳肅な雰囲気の中で卒業式が行われていました。ただ、卒業式の最後の合唱などは本当に生徒たちももう卒業してしまうんだという気持ちがこみ上げてくるようで、中には号泣しながら歌っている生徒さんもいらっしゃって、何かこちらも感激して、もらい泣きをしてしまうような感動的な式でした。一の谷小学校のほうは1部と2部に分かれていまして、1部のほうでは本当に式典という形の卒業式でした。2部のほうではそれぞれ縦笛を吹いたり、歌を歌ったり、あとはいろいろな言葉を卒業生と送る方の在校生とがかけ合いをしたりして、非常に和やかな雰囲気の中で、それもまたすばらしい卒業式でした。また先日、東中と御堂中の合唱祭、合唱コンクールを拝見させていただきました。私自身が歌が好きということもありますが、この時期の合唱コンクールというのは、私は心に沁みてとても良かったと思います。もうこれが中学校生活最後の大きな行事ということで、本当にみんなが心を一つにして、その行事のために打ち込んでいる姿はやはり非常に感動しました。それぞれ1年間いろいろな学校行事があつて、なかなか調整が大変だと思いますが、3月に合唱コンクールがあるというのも締めくくりの行事としてなかなか良いのではと感じました。

委員長（古田土暢子君）

丹治委員、いかがでしょうか、卒業式についてなにかありましたらお願いします。

委員（丹治 充君）

私は、中学校は増戸中学校、小学校が東秋留小学校、それぞれ伝統ある2校に参加させていただきました。

まず、増戸中学校ですが、子供たちの姿、立ち居振る舞い、いわゆる所作が大変落ち着いた、規律ある、そういう姿勢がとれていましたし、一方3年生を送り出す在校生の姿勢も微動だにしないんですね。本当に増戸中学校全体の美を私は感じて帰ってまいりました。

それから、東秋留小学校は本日でしたが、やはり子供たち、小学校の段階でも式に臨む姿勢といいますか、先ほど申し上げた所作一つとっても、これは市全体に言えるのかもしれませんが、ただあの年代の子供たちがあそこまできちっとできるということは、さらにまた中学校へ行って大きく飛躍するのかなと、そんな期待感もあわせて持つことができましたので、とってもいい卒業式が行われていました。

以上です。

委員長（古田土暢子君）

ありがとうございました。

教育長。

教育長（宮林徹君）

私は、中学校は、それこそ丹治先生がつくり上げてきた秋多中でした。それは見事なものです。伝統のある、格式の高い、本当に無駄なものが一つもない卒業式でしたね。子供たちもきちっとしているし、何か重量感のある卒業式でしたね。190名が卒業していったわけですから、卒業証書授与の場面が長かったんだけど、私は教育委員会から用意されたものを持って行って読むわけだけど、余りに感動したんで書いてあるものだけ読むんじやおさまらなかつたものですから、秋多中学校を卒業したことについて誇りを持てるだろう、

今日の卒業式の姿を見たら。これが秋多中なんだということを今日は広く大勢に見せたらという話をしたんです。5クラスの担任の先生が一人一人を呼名をするときに、名簿を見て呼名してないんです。舞台の上に立った子供の顔を見て、名前を言っているんです。全員の名前を。見ながらこうやってないんです。そうだったんだよという話をしたんですよ。君たちの名前を呼ぶのに担任の先生が名簿を見ながら呼んでないんだと。君たち一人一人をよく知っているから、舞台に上がっている君たち一人一人見ながら呼名をした。これすごいことなんだぞ、専門的に言うと。そんなことは紙には書いてない。そういう先生に教わって、君たちが今卒業するわけで、誇りだろうという話をしてあげたんです。それからあとはまた同じように書いてあることを読んで終わりにしたんだけど、その部分で少し気合いを入れて話をしたんです。そこはおおと思っただけ聞いていた人もいようだけど、私は本当にそう感じたんですね。秋多中の子供たち、長い時間かけてつくり上げた伝統のある秋多中。それから在校生の贈る言葉は1人で書いたものを読む。その中身もまたぐつとくるものがあるわけです。それから、卒業生の最後のお別れの言葉は2人、女の子と男の子が出てきて、校長先生がテーブルの前に立って、校長先生に向かって読むようになっている。ものすごいシンプルなんだけど、中身が濃いから、その2人の話を聞いているうちに泣けてきちゃうんです、聞いていて。とっても研ぎ澄まされたい卒業式だったね。これがいい、私は好きなんだ、そういうのが。

一方今日は小学校です。小学校は舞台の上で僕たちは、僕たちは、卒業します、しますとやるわけです。1年から6年までやるわけですよ、それはまた、雰囲気全然違う。それで私は、小学校の卒業式で、ほおっと思ったんだけど、羽織はかまが82人のうちに20人近くいた。6年生で羽織はかまですよ。美容院に行って、こうやって、男もいるんですよ。男は成人式に着てくる男の子がいるでしょ。あれと余り変わらないのを着てくる子もいるわけです。頭もこういうふうにして。そうかと思うと、西中学校の生徒になるわけだから、西中の制服を、やや大き目なのを着て、舞台に上がって、そして僕はサッカー部に入りますとか。見ているとおもしろいんです。1組、2組、3組あるうち、担任の先生が指導したかどうか知らないけど、中学校へ行ったら部活でがんばるとか、プロ野球の選手になるとかというのが続くかと思うと、あるクラスはお父さん、お母さん12年間ありがとうございましたということをみんなが言うクラスがあるんだよね。そこは余りクラブがどうだなんて言わないんです。担任によってやはり話題が違うんだな、何をしゃべるかと思ったら、お父さんやお母さんにも感謝したほうがいいねなんていうことを言うと、それを考えてくるんだろうね。だから担任がどういう指導をしたかということが、どっちがいいとか、悪いとかじゃないですよ。本当によくわかる、見ていると。

だけど、羽織はかまというのは、五日市のほうはどうだったのかね。

教育部長（荻島邦彦君）

五日市は男の子3人、女の子も3人いました。

教育長（宮林徹君）

それは時代だね。僕らのころには羽織はかまなんていう子はいなかったね。それは恐らく着物としてつくったものじゃなくて、恐らく今日はそのまま記念写真も撮って、セットで幾らというものがあるんだろうと思うんですね。変わりましたね。

それぞれいい卒業式ではありましたが、羽織はかまにはびっくりしましたね。

委員長（古田土暢子君）

ありがとうございました。

私のほうは、中学校が西中学校、それから小宮小学校に伺いました。やはり西中学校は、いつもここでも卒業式の話になると西中の生徒さんの立派さが語られるんですけど、本当にすばらしいです。式典に臨む姿勢がきちっとできて、礼を一つとってもすばらしい礼の仕方、それから一斉に向きをかえるその姿もすばらしかったです。それで、入場のとくと退場のときのブラスバンドがもうびったりその席についたときに終わるという、本当にきちっとされたものであったと私も思いました。それであいさつもさせていただきましたけれども、先ほど丹治委員が言われたように生徒が微動だにしない姿で、下の2年生、1年生も、しいんと整った状況であいさつを聞いていくという、長い時間でしたけれども、すばらしかったです。男子生徒も本当に感きわまって泣いている生徒もおりましたけど、そういう情景を見て、とってもすばらしいな、こういうときに涙が流せるってすばらしいなって思ったり、今中学校のお話すべてお聞きしましたけれども、今の中学生立派ですね。本当、そう思いました。安心しました。

それから、小宮小の話は、今回最後の卒業式になりましたけれども、女子が3名、男子が3名という6名の卒業生でした。やはり2名女子がはかまをはいていて、それであとは五日市中学の制服を着て、とってもまた制服もよかったです。やはり低学年から全員が呼びかけをして、それで一緒に太鼓を打ちたいですって言って、和太鼓を披露してくださいましたが、それも本当にこれで最後かなって私も聞きましたけれども、胸に迫るものがありました。それで一人ずつ卒業証書をいただいたときに話していた言葉の中で、私は友達をたくさんつくりたいってことを語った生徒が大勢いました。やはり大勢のお友達欲しいんだらうなっていう思いもいたしました。体育館で、ご来賓も多く、それから保護者の方や地域の方とか、皆さん大勢見えた中で、全体で卒業生をお祝いしようという空気を私も感じて、とってもいい最後の卒業式に出させていただいて、本当にありがたかったと思います。

こちらの今委員さんだけの学校の話になりましたけれども、皆さん、部長さん、課長さん出席していただいているいろいろありがとうございました。

山城委員。

委員長職務代理者（山城清邦君）

私のほうは4回目の卒業式に参列させていただいて、最初から感じていることが1つありまして、世の中は今どちらかというと儀式とかそういうものは余り重要視されないで、気持ちさえあればいいではないかという、そういう風潮があると思うんですけど、やはり小学校にせよ、中学校にせよ、何かのときにはきちっとした儀式をする。その中でお辞儀の仕方から、それから歩き方だとか、受け取り方だとか、それを体験するということはとても大事なことだと思えます。これがきちっと行われているということは子供たちにとって、将来にとって大事なことだと思っています。一人一人もそうですし、それからそこに参列する1年生、2年生、中学校であれば、その生徒たちもその中では卒業生と同じ一つの儀式の中の一員であるということを自覚させるという意味でとても大事なことで、私

が感じますには、今まで行かせていただいた卒業式はどこもきちっとできているように感じますので、これはとつてもすばらしいことだだと思います。

これが小学生に限らず幼児のある段階から必要なことだと私は思っていて、1年に1回か2回、そうした席にはきちっとこういうふうにするんだよということは、幼児のころから教えていく必要があると思います。

今日は本当にすばらしい各学校の卒業式でした。ありがとうございました。

委員長（古田土暢子君）

それと、1つお聞きしたいんですけれども、20日の駅伝大会がございましたね。少しそのあたりの様子を聞かせていただけたらと思います。

指導担当部長（新村紀昭君）

中学生のでしょうか。

委員長（古田土暢子君）

中学生の。中学生東京駅伝。

西山指導主事。

指導主事（西山豪一君）

20日の日に中学生東京駅伝大会が味の素スタジアムをメイン会場にして行われました。一応第3回という形にはなっておりますが、第1回目が実施され、第2回目は昨年度東日本大震災の影響で実施できずに、実質2回目という形での実施になりました。

あきる野市を含めて全部で50チーム、男女ともに50チームが参加いたしました。距離といたしましては、女子が30キロ、男子が42.195キロという距離を、女子は全部で16名、男子は17名でたすきをつないでいくという形で進められました。

本当に子供たちなかなか一緒にそろって練習をする機会はなかったんですけれども、2回だけ事前に練習をして、その前には結団式などで教育長からも話をいただきながらあきる野の代表として参加するんだという気持ちを持ちながら当日は向かいました。

結果的に第1回目のときよりは記録としては伸びたんですけれども、記録としてはまだまだの部分もございました。そういう意味ではまた、教育長が最後に今回のこの経験を生かして、ぜひ次の、今の1年生に育ってほしいというような話もしていただきました。そういう気持ちを持ってまたこちらあきる野のほうまで戻ってきて、今活動のほうにも専念していると思います。

以上です。

委員長（古田土暢子君）

ありがとうございました。

朝早くからいろいろお疲れさまで、ありがとうございました。すばらしい冊子もできてよかったですね。ありがとうございました。

ほかに何か、よろしいですか。

はい。

委員（田野倉美保君）

今回初めて卒業式に出席させていただき、告辞を読ませていただきました。個人的な感想ですが、中学生向けと小学生向けとは内容が変わるものと思っていたのですがまったく

同じものでした。今までもずっと同じものなのではないでしょうか。小学生にとっては内容的にちょっと難しいことが書いてあるように私は感じたんですけども。

指導担当課長（千葉貴樹君）

年度によって違いますけども、大方小学校と中学校は同じです。特にこの1年間起こった内容で、中学生向け、小学生向けのことがある場合にはかえる場合もありますけれども、今回は共通する被災地のことや文化遺産のことなど一緒にさせていただきました。

委員（田野倉美保君）

年度によって内容が変わる場合があるんですね。

指導担当課長（千葉貴樹君）

かわる場合もあります。ただ、最初の部分とか、終わりの部分につきましては毎年一緒ですけども、その1年間にあった内容で、ちょっと高度だけでも中学生には伝えたいなどというような内容の場合にはそういうこともあります。

委員長職務代理者（山城清邦君）

私も内容によったらいいかなと思うんですけども。

教育長（宮林徹君）

私も内容が同じなんだと思ったんだけど、聞く相手は中学3年生と小学校6年生だから全然違うわけですよね。そうすると同じことの中身をしゃべるにも、しゃべる側が、歌を歌うほうが節回しを考えてうたわないとわからない。そこはもうこちらが今度は問われちゃうんですね。だから、私も小笠原って知っているんでしょうと。小笠原、あそこが文化遺産になったんだよって、知っているでしょうと。それから、やはり被災地の平泉とか、もう少し大きくなったら君たちも行って、自分の目で見てきたほうがいいよ、そう思うだろうという話をしたの。ただ読むだけじゃなくて。そういうふうにはやっぱり考えなきゃいけない、しゃべる側が。そうすると、同じことが書いてあったって全然違うでしょう。私はそういうふうにはしている。それが大事な。そうじゃないと、小学6年生と中学3年生に同じことをしゃべってもわからないですよ、6年生は。ということもあるよね。だからああいうものをいただいたときに、ここはアドリブ、アドリブばかりで長くなっちゃ困るから、何をしゃべってるんだということになっちゃ困るから、そこはやはりプロとして、我々プロだからそういうふうにはやってください。

もともとは自由に、自分で考えていることを勝手にしゃべってよかったんです。ただ、ある時期、教育委員さんでしゃべる人がいて、15分以上しゃべっちゃったんですよ。出て行って、難しいことを盛んに。それはないでしょうって。だから同じ時間にびしっと終わるぐらいにしなきゃいけない。だったら書いたものを読んでもらうのが一番いいと。紙に書いてもらうようになった。だからそれは基本的にはあの長さでいいんだけど、ただしゃべって、わからせるという点では、同じことを違う言葉で言っても構わないでしょう。というふうに思います。

例えば国際社会の中で信頼される日本人になりたい、なろうよという、これなんかやはりスケールが大きいと思うんです。ああいうところで教育委員会が言うことだから、余りスケールが小さい話をちょこちょこ言ってもおもしろくないんだよね。世界に羽ばたいて行って、国際社会の中で信頼される日本人になるんだということはやはり大事なことだと

思って、そういうことが書いてあるから、おお、これはいいなと思っているんだけどね。そこは強い声で世界に通用する人間になるんだぞ。ということでもありますので、今度入学式がありますからよろしくお願いします。1年生だから、同じことを言ったらわからないよね。

指導担当課長（千葉貴樹君）

1年生の親の言葉が違います。

教育長（宮林徹君）

私なんか今度は戸倉小学校へ行きますから。新入生入場、1人ですから。1人にあれを読んだってわからないですよ。だからだれちゃん、入学おめでとうと、こういう話になるわね。べらべら、べらべら読んだって、1人でこうやって聞いているだけじゃ気の毒だからね。私は、その子の顔を見ながら何しゃべろうかなと思って考えている。それはよく読んでいってね。それぞれ相手がいることだから。だんだん、だんだん楽しくなりますよ、ああいう会が。

委員（田野倉美保君）

今回は本当に余裕がなくて、書いてあることを間違えないように読まなきゃっていう気持ちで。それでもう精一杯でした。

教育長（宮林徹君）

お願いいたします。

委員長（古田土暢子君）

ほかにかがですか。よろしいですか。

ほかはないようですので、教育委員報告は終了いたします。

最後に、事務局から今後の日程についてご案内をお願いします。

教育総務課長。

教育総務課長（鈴木恵子君）

では、今後の日程についてご案内申し上げます。

3月25日には小宮小学校の閉校式典がございます。9時に集合、出発ということで市役所にお集まりをお願いいたします。

それから、4月6日は小学校の入学式、9日は中学校の入学式がございます。

それから、4月13日は教育施策連絡会が都庁で開催をされます。11時半に市役所を出発したいと思いますので、お願いをいたします。

それから、4月の定例会でございますが、26日木曜日2時から、会議室は504会議室で開催をいたします。よろしくをお願いいたします。

委員長（古田土暢子君）

以上をもちまして、あきる野市教育委員会3月定例会を終了いたします。

閉会宣言 午後2時45分